

家も家具も所有しない、身軽な住まい。

# LIVING A BETTER LIFE

効率よく軽やかに生きよう！  
ニュー・スマートライフのすすめ。

衣食住も進化を遂げ、新しいかたちへと向かっている昨今。時間やコストの制約から解放してくれるサブスクと呼ばれる定額制サービスや、地球にも優しいシェアサービス、時短アイテムまで。人生を賢くスマートに生きるために、知っておくべき最新事情をお届けします。

Text: Shunta Ishigami (p.122, 123, 125/Food, Flower, 126), Itoi Kuriyama (p.124, 125/Fashion) Editors: Maki Hashida, Kyoko Osawa, Mio Sai



“第2のふるさと”の提供を目指す「HaFH」は、世界に住居施設を展開するサブスク式の住み放題サービス。現在日本、ギリシャ、ベトナムなど国内外に60の施設があり、月額料金のなかには光熱費やネット料金、保証金などもすべて含まれる。世界中を旅しながら働く生活は、現実的なものとなりつつあるよう。https://hafh.com/jp/top/



「TECH RESIDENCE」は、IT版の「トキワ荘」を標榜するITエンジニア・クリエイター向けの賃貸住宅。恵比寿や目黒、二子玉川、芝公園と多くの人の集まるエリアにつくられたこの住宅は、入居者の属性を限定することで単なるシェアハウスでは生まれない豊かなコミュニティをつくりだしている。https://techresidence.com/



東京発のスタートアップ「Sampo」が開発するのは、「MOBILE CELL」と名付けられた“服以上、家未満”のガジェット。軽トラにドッキングされたこの動く部屋は寝室や書斎、ゲストルーム、サウナと用途に応じて自由自在にカスタマイズできる。誰もが自分だけの動く部屋を持つ日も近いかもしれない。https://www.sampo.mobi/

好きなときに、好きな場所で、  
好きなかたちで暮らす。

一人暮らしの空間に豪華な共用スペースを備えコミュニティの中で生活することを可能にする「ソーシャルアパートメント」。写真の「ネイバース目黒」のように広々としたラウンジにビリヤード台などが用意され、自然とコミュニティが築かれる個性的なスペースが注目を集めている。https://www.social-apartment.com/



「Airbnb」のような民泊はもはや当たり前となり、働き方の変化によってシェアオフィスユーザーやノマドワーカーも珍しいものではなくなった今。その変化にともなって、「住む」ことにまつわるサービスも多様化が進んでいる。数十万円で購入できる移動可能なモバイルハウスもあれば、国内外の施設に泊まり放題のサービス、ラグジュアリーなシェア物件——さまざまなサービスが「住む」ということをより豊かにしてくれる。なかには、住人の職種を絞ることで施設に生まれるコミュニティを活性化させる取り組みも。これまで「住む」ということは、決まった場所に決まった人と一定の期間以上暮らすことを意味していたが、そんな考え方は時代遅れのものとなりつつあるのかもしれない。もちろん海外でも同種のサービスは生まれており、日本に上陸したインド発の「OYO」のように家電・家具付きの部屋に敷金・礼金・仲介手数料ゼロで住めるサービスもあれば、エストニア発の「Jobbatical」のように旅するように仕事を变えていけるサービスも登場している。フリーランサーの増加によって「仕事」や「働き方」がよりフレキシブルになっていったように、これからの「住む」も流動的で、柔らかいものになっていくはず。ゆくゆくはその日の気分でラグジュアリーな空間から小さなモバイルハウスまで、好きなように移動しながら住む場所を決めることになるかもしれない。私たちはもっと自由になれる。“どこでもドア”はまだ生まれていないけれど、いつでもどこでも好きな場所で暮らせる日は近づきつつあるようだ。

LIVING